

No. 1681

「湘南国際村」オープン

相模湾を一望する横須賀市と葉山町にまたがる三浦半島の丘陵に神奈川県が主体となって建設している滞在型国際交流の舞台となる「湘南国際村」が5月30日に開村しました。開館したセンターには会議場、研修室、宿泊室、レストランなどの施設が設けられています。西暦2000年までに総事業費5,000億円をかけて総合研究大学院大学、官・民の研究施設、そして一般住宅900戸も建てられ「ホームステイ」にも協力します。開村を祝って6月4日5日「世界民族芸能祭」が開かれました。丘の上の広場には各国の衣類、装身具、料理の店が立ち並び地元の人々や外国人のお客で一日中にぎわいました。夏から秋にかけて国際村では音楽会、フォーラムなど多彩なイベントが予定されています。「湘南国際村」が21世紀の国際交流の拠点として大きく育って欲しいものです。

広がるリサイクル運動

——都内——

練馬区立の9つの図書館で年間6万冊の本を廃棄処分して再生紙にしていたのを「本は本のまま区民に還元しよう」という試み「本のリサイクル市」が6月18日19日区内の図書館で開かれました。石神井図書館では開館と同時に区民が多勢あつまり並べられた2,000冊の本や雑誌の中から10冊まで持ち帰れるとあって熱心に掘り出し物を探していました。区内6ヶ所の図書館で行われた「本のリサイクル市」の初の試みは成功したといえそうです。一方、北区では地域リサイクル活動の拠点として「富士見橋エコー広場館」を本年1月に開館しました。「リサイクル生活文化」の創造をめざして住民、企業、行政が互いに連携して地域活動を行う目的でつくられた施設で、運営管理は区民による自主運営で行われています。屋上の風力発電機で1日100ワット電球7ヶ分の発電をしたり、中庭のレンガは下水道の汚泥を焼却した灰で作られ、建物全体で資源の節約を図っています。館内では古布を使って裂き布織り、わらじ作り、紙すきなどの講習会が随時行われ主婦たちが楽しんで学んでいます。また区民の中からボランティアで参加している「暮らしのリサイクル達人」がカメラ、テレビ、おもちゃなどを無料で修理したりアイデア作品を作ったりして大人から子供までに喜ばれています。フリーマーケットによる市民同士の交流も各地で開かれリサイクルの輪は大きく広がっていくようです。